

湯江川水系河川整備基本方針

平成30年 3月

長 崎 県

ゆえ 湯江川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 湯江川流域の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	3
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	3
3) 河川の維持管理に関する事項	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に 係る川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために 必要な流量に関する事項	5

<参考図>

ゆえ
湯江川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 湯江川流域及び河川の概要

湯江川は、島原半島北東部に位置し、その源を長崎県島原半島の中央部雲仙普賢岳（標高 1,359m）に発し、北東に流下し途中前川内川、山ノ田川等の左支川を合流したのち、島原市有明町の市街地を貫流して有明海に注ぐ流域面積約 13.5km²、幹線流路延長約 7.6km の二級河川です。

流域の気候は、温暖な西海型気候区に属しており、年平均気温は約 17℃程度、年平均降雨量は概ね 2,100mm 程度であり、梅雨や台風の影響を受けるため5月から9月の降水量が多くなっています。

流域の地形は、上流域は山岳地帯を形成し、中・下流域は谷底平野が広がっています。中流の沿川では水田や畑に利用されており、下流域では、住家や公共施設が集中し市街地となっています。

流域の地質は、ほとんどが礫石層で覆われ、海岸線付近の段丘は舞岳の火山性噴出物である大三東ローム層が堆積しています。

流域内の人口は、約 3,000 人でその多くが中・下流部に集中しています。

流域の内の主な史跡には、縄文時代の墳墓がある礫石原遺跡や、古墳時代の庄司屋敷古墳、中世のものとされる大野浜城跡があり、他にも縄文時代・弥生時代の遺跡などが多数存在しています。

湯江川の治水・利水・自然環境および河川利用状況の概要は以下に示すとおりです。

① 治水の概要

湯江川は、川幅が狭く流下能力が低いことから過去幾度となく台風や大雨による災害を引き起こしてきました。

主な洪水としては、昭和 55 年 7 月 30 日、昭和 63 年 5 月 3 日、平成 3 年 6 月 30 日に発生していますが、特に、平成 2 年 11 月に 200 年ぶりに噴火した雲仙普賢岳の度重なる噴火による降灰で被害を受け、その後発生した平成 3 年 6 月 30 日洪水では、土石流が発生するとともに、浸水面積 22.8ha、床下浸水 19 戸と甚大な被害が発生しています。

平成 2 年の雲仙普賢岳の噴火及び平成 3 年の洪水を契機として、平成 3 年から砂防・治山事業、平成 4 年から河川改修事業に着手しており、砂防堰堤、治山ダムは平成 21 年までに完成しています。河川改修事業は、下流部の橋梁架け替え、護岸改築、河床掘削を行っています。未だ流下能力の低い箇所があるため、洪水氾濫の危険性は高い状況にあります。

②利水の概要

湯江川の河川水は主に堰からの取水により周辺の水田等の農業用水として利用されていますが、近年これらの水利用に著しい影響を与えるような渇水被害は発生していません。

③ 自然環境及び河川利用状況

流域内の上流域は山地、中流域に水田等の農地が広がり、下流域で宅地が見られ、河原や河川の周辺の農耕地には、数多くの小動物、鳥類が生息しています。

源流から佐野川合流部に至る上流部では、河川内は主に草本類が大部分を占めており、ミゾソバ群落が水面を覆うように繁茂しています。護岸は石積みまたはコンクリートブロックとなっており、河床は主に砂礫や玉石で構成されています。水辺ではコサギやアオサギ等の鳥類が見られ、水際と接する箇所では、タカハヤやギンブナ等の魚類やモノアラガイ（準絶滅危惧：環境省レッドリスト（以下「環」という）、絶滅危惧Ⅱ類：長崎県レッドリスト（以下「長」という））等の貝類・甲殻類が生息しています。

佐野川合流部から1号堰に至る中流部では、周辺は森林環境となっており、アラカシ等の河畔林があり、河川が緩やかに蛇行し、砂州にはサヤヌカグサ群落等の植生が見られます。護岸はコンクリートブロック類となっており、河床は主に砂礫で構成されています。水辺ではコサギ、アオサギ、ミサゴ（準絶滅危惧：環、準絶滅危惧：長）などの鳥類が見られます。水際と接する箇所では、ギンブナやヤリタナゴ（準絶滅危惧：環）、ヨシノボリ類等の魚類が生息しています。堤沢川合流部の上流には水辺に近づけるよう階段や親水護岸が整備されています。

1号堰から河口に至る下流部では、感潮区間であることから河道内にあまり植生は見られませんが、河口左岸の潮溜まりにはヨシ群落等が見られます。護岸はコンクリートとなっており、河床は主に砂礫で構成されています。水辺ではゴイサギ、コサギ、アオサギ等のサギ類が見られ、水際と接する箇所では、トビハゼ（準絶滅危惧：環、絶滅危惧Ⅱ類：長）やギンブナ等の魚類や、マルタニシ（絶滅危惧Ⅱ類：環、絶滅危惧Ⅱ類：長）やハクセンシオマネキ（絶滅危惧Ⅱ類：環、準絶滅危惧：長）等の貝類・甲殻類が生息しています。

湯江川の水質に関しては、公共用水域の類型指定は受けていませんが、平成18年に行った観測では、湯江川橋（河口から約1.0km上流）におけるBODは2.0mg/リットル以下で、環境基準B類型相当（3.0mg/リットル以下）を保ち、概ね良好な水質であるといえます。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

湯江川^{ゆえ}の整備にあたっては、安全・安心で快適な地域づくりをめざし、島原市の社会、経済の発展に係わる諸計画（島原市市勢振興計画^{しまばらし}等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図ります。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川整備・保全に係る取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

湯江川においては、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量を安全に流下させることのできる整備をめざすとともに、台風等による高潮にも対処します。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や、計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民や島原市等関連機関との緊密な連携のもとに合理的な水利用の促進等、適正な水利用を図ることにより流水の正常な機能の維持に努めます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、ヨシノボリやギンブナ等の魚類、河口の干潟のハクセンシオマネキなどの生息・生育・繁殖環境の保全に努めます。さらに、地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間の整備を図ります。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切に行います。

河川管理施設については、河川の巡視及び点検を行い、亀裂・陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には必要に応じてその補修工事を実施します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、年超過確率 1/30 の規模の洪水とし、そのピーク流量は、基準地点湯江川橋（河口より約 1.0km 地点）において $240\text{m}^3/\text{s}$ と設定し、これを河道に配分します。

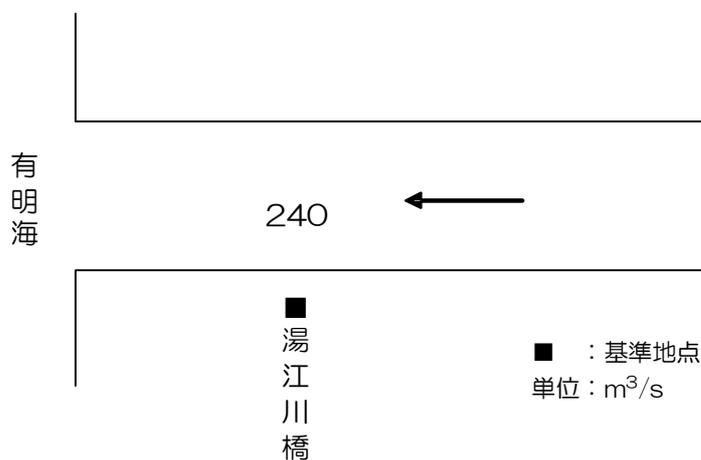
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位： m^3/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
湯江川	湯江川橋	240	—	240

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

湯江川における計画高水流量は、基準地点湯江川橋において $240\text{m}^3/\text{s}$ とします。



湯江川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

湯江川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次に示すとおりです。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧

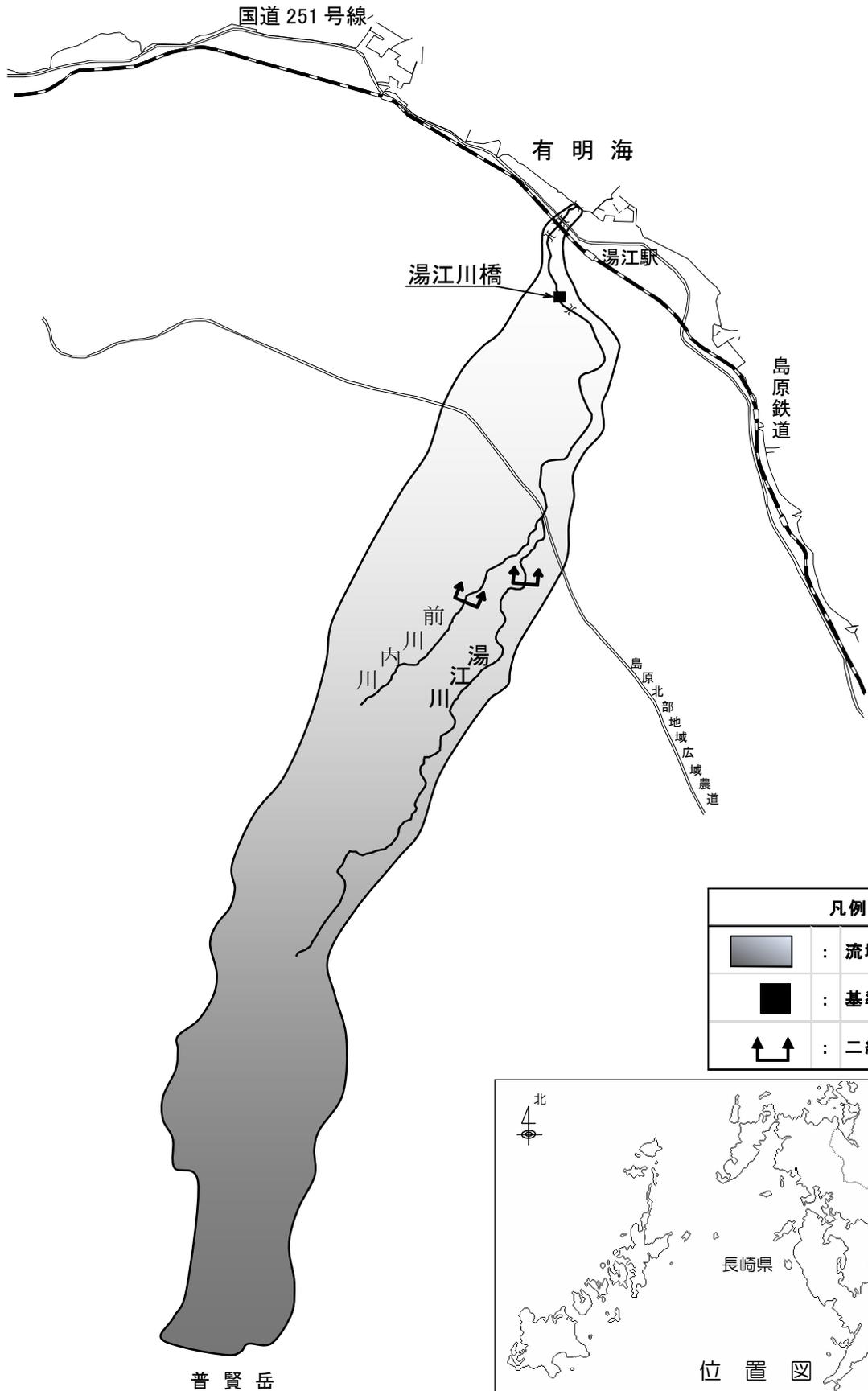
河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位(T.P.m)	川幅(m)	摘要
ゆえ湯江川	ゆえ湯江川橋	1.0	+8.65	25	基準点

(注) T.P.: 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

湯江川の河川水は主に流域内の水田等で農業用水として利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮のうえ、今後必要に応じて調査・検討を行います。



参考図 湯江川水系流域概要図